

(提案 32)

日本学術会議の活動状況等に関する年次報告
(平成 23 年 10 月～平成 24 年 9 月) の作成について (案)
1. 目的

社会に対して広く 1 年間の日本学術会議の活動について明らかにするとともに、外部評価委員による外部評価の基礎資料とするため、平成 23 年 10 月から平成 24 年 9 月までの日本学術会議の活動状況を報告する冊子を作成する。

2. 構成

構成については例年通り、「第 1 編 総論」と「第 2 編 活動報告」に分冊する。

頁数の目安

第 1 編 総論	24 頁
1. 表紙	1 頁
2. 日本学術会議憲章	1 頁
3. 目次	1 頁
4. 冒頭挨拶 (会長)	1 頁
(会長としての方針・方向性、会長自身の考えなどを記載)	
執筆担当：大西会長	
5. 日本学術会議の活動	17 頁
(それぞれ方向性やスタンスを加えて記載)	
①政府及び社会に対する提言	(4 頁)
執筆担当：小林副会長	
(東日本大震災復興支援委員会の提言については、大西会長、小林副会長及び春日副会長で分担執筆。新規設置の分科会も含めた今後の活動についても記載)	
科学と社会委員会関係で 2 頁。	
東日本大震災復興支援委員会関連で計 2 頁 (総論 1 / 3 頁、提言発出した各分科会 1 / 3 頁 x 4、新規を含めて今後の活動で計 1 / 3 頁)	
②国際的活動	(2 頁)
執筆担当：春日副会長	
③科学者ネットワークの構築	(2 頁)
執筆担当：武市副会長	
④科学の知の普及に向けて	(2 頁)
(サイエンス・カフェ、〈知の航海〉シリーズ、その他)	
執筆担当：小林副会長	
⑤日本学術会議を支える 3 つの科学部門	(6 頁)
(各部からの提言や報告の内容、注目を集めたシンポジウムも紹介)	
・各部見開きで 2 頁	
執筆担当：各部長	
⑥日本学術会議改革検証委員会の設置	(1 頁)
執筆担当：小林副会長、武市副会長	

6. 1年の活動記録（カレンダー等）	2 頁
7. 裏表紙	1 頁

頁数の目安

第2編 活動報告	151 頁
1. 日本学術会議の概要（組織の概要）	1 頁
2. 組織ごとの活動報告	148 頁
(1) 総会	(1 頁)
(2) 幹事会及び附置委員会（各 $\frac{1}{2}$ 頁）	(5 頁)
(3) 部（各1頁）	(3 頁)
(4) 機能別委員会（委員会 各 $\frac{1}{2}$ 頁、分科会 各 $\frac{1}{3}$ 頁）	(10 頁)
(5) 課題別委員会（各 $\frac{1}{2}$ 頁）	(4 頁)
(6) 分野別委員会（委員会 各 $\frac{1}{2}$ 頁、分科会 各 $\frac{1}{3}$ 頁）	(120 頁)
(7) 地区会議（各 $\frac{1}{2}$ 頁）	(4 頁)
3. インパクトレポート	2 頁

3. 留意点

記載に当たっては、外部評価委員による外部評価を受けることも念頭に置き、活動の趣旨や審議内容、具体的にどのような成果があがったのか、提言等のフォローアップ等など、数値や図、写真も用いつつ分かりやすく述べるよう努める。関連するウェブサイト等があれば記載する。

4. スケジュール

7 月 20 日	年次報告書の構成等について年次報告等検討分科会で審議（分科会開催）
7 月 27 日	幹事会で年次報告書の①目的、構成等について了承を得る、②原稿執筆者を決定
7 月末頃	年次報告書の執筆依頼
8 月 24 日	執筆原稿の締め切り
9 月上旬	活動報告について初稿を各執筆者に校正依頼
9 月上旬	年次報告書案について年次報告等検討分科会で審議（分科会開催）
9 月 21 日	幹事会で年次報告書案を了承
10 月 9 日	総会に年次報告書を報告
10 月以降	外部評価委員の検討

日本学術会議の活動状況等に関する年次報告 (平成 23 年 10 月～平成 24 年 9 月) 執筆要領 (案)

1 執筆の必要のある方 (執筆担当委員会等)

「第 1 編 総論」

各執筆担当者

「第 2 編 活動報告」

- ① 各部長 (部)
- ② 幹事会附置委員会委員長 (幹事会附置委員会)
- ③ 各機能別委員会及び分科会委員長 (機能別委員会及び機能別委員会附置分科会)
- ④ 各分野別委員会及び分科会委員長 (分野別委員会及び分野別委員会附置分科会)
- ⑤ 各課題別委員会委員長 (課題別委員会)
- ⑥ 各地区会議代表幹事 (地区会議)
- ⑦ 事務局 (総会、幹事会、その他)

(注 1) 機能別委員会及び分野別委員会に附置された分科会については、原則として、平成 23 年 10 月から平成 24 年 9 月までに開催実績又は開催予定があるものについて個別に執筆していただくことになります。

(注 2) 上記分科会に更に小委員会等が附置されている場合については、原則として、分科会の原稿中に含めて執筆していただくことになりますが、当該小委員会等の活動状況等に応じて分科会とは別に執筆していただいても構いません。

2 原稿提出期限

平成 24 年 8 月 24 日 (金) (締切厳守)

(締切を過ぎてからご提出いただいた原稿は、掲載出来ない場合があります。)

3 提出先

- ・日本学術会議事務局企画課審査係 E-mail : p225@scj.go.jp

なお、企画課審査係に提出した原稿につきましては、日本学術会議事務局の当該部・委員会等を担当しています事務担当者にも御提出 (電子メール等にて) いただきますようお願いいたします。

4 提出方法

- ・原稿の提出は、原則として、電子メール (p225@scj.go.jp 宛て及び日本学術会議事務局の当該部・委員会等の事務担当者宛て) で電子媒体にて御提出くださいますようお願いいたします。その際、電子メール本文には、執筆責任者の御名前とその連絡先を明記願います。
- ・各委員会及び分科会については、原稿の提出は分科会毎に個別にお出しいただいても、親委員会で取りまとめて一括して御提出いただいてもどちらでも結構です。

親委員会で取りまとめて御提出いただく際には、分科会委員長と調整の上で御提出いただ

ければ幸甚です。

5 原稿作成要領

① 執筆内容

- ・平成23年10月から平成24年9月までの活動について原稿を作成してください。なお、原稿の提出後に活動実績等が確定、追加になり、原稿を修正、追加する必要がある場合は、速やかに原稿の修正、追加を御提出していただきますようお願いいたします。
- ・対外的な年次報告書であり、また、外部評価の基礎資料にもなることに鑑み、活動の趣旨や審議内容、具体的な成果など、社会的意義が明らかになるような内容の記載をお願いいたします。
- ・専門家以外の方にも分かりやすく、明確かつ簡潔になるよう、出来るだけ箇条書きでご記載ください。
- ・可能であれば定量的な数値や図、具体例等を示しつつ説得力のある記述をお願いいたします。また、関連するウェブサイト等があればURLを御記載ください。
- ・提言等を行った委員会、分科会等は、その後のフォローアップ結果等を把握していれば、記載をお願いいたします。

(その他留意事項)

- ・「である」調としてください。
- ・いわゆるカタカナ語を含む難解な専門用語や略語についてはできる限り使用を避け、やむを得ず使用する場合には、用語の後にカッコ書き等で、その用語の説明や正式名称を記載してください。
- ・年号の書き方は、原則、和暦（例：平成24年）とし、国際案件については、例外的に、西暦（和暦）（例：2012年（平成24年））を御使用ください。
- ・御提出いただいた原稿については、年次報告等検討分科会での審議等を踏まえて調整させていただくことがありますので、予め御了承ください。

② 原稿の書式

各部 …様式1

各委員会及び分科会 …様式2

各地区会議 …様式3

(文字フォントMS明朝 10.5 P t)

③ 原稿の分量（頁数）

「第2編 活動報告」における各部、委員会毎の基本的な執筆分量は次のとおりです。

- | | |
|-------------|-------|
| ・ 幹事会 | 1/2 頁 |
| ・ 幹事会附置委員会 | 1/2 頁 |
| ・ 部 | 1 頁 |
| ・ 機能別委員会 | 1/2 頁 |
| ・ 機能別委員会分科会 | 1/3 頁 |

- ・ 課題別委員会 1/2 頁
- ・ 分野別委員会 1/2 頁
- ・ 分野別委員会分科会 1/3 頁
- ・ 地区会議 1/2 頁

なお、上記の分量はあくまでも目安です。

全体の構成については別添「日本学術会議の活動状況等に関する年次報告（平成 23 年 10 月～平成 24 年 9 月）の作成について」を御覧ください。

※平成 23 年までの年次報告書は日本学術会議の下記のホームページで御覧になることができます。（ <http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/nenji/index.html> ）

様式 1 （各部）

第 ○ 部			
部長		副部長	
幹事			
主要な 活動			
今後の 課題等			
開催 状況			

様式2（各委員会・各分科会）

委員会（1/2 頁目安）

名称			
委員長		副委員長	
審議 経過			
具体的 成果等 (今後の 予定を含 む)			
開催状況			

分科会（1/3 頁目安）

名称			
委員長		副委員長	
審議 経過			
具体的 成果等 (今後の 予定を含 む)			
開催状況			

様式3（各地区会議）

〇〇地区会議		代表幹事	
主要な 活動			
開催 状況			

(記載例)

名称 ○○委員会△△分科会			
委員長	○○ ○○	副委員長	△△ △△
審議 経過	・ ○○○を巡る△△政策について、△×を踏まえつつ、○×モデルの構築を目指して検討。 ・ ○○○の中心的課題である○×△について議論を行い、△○について確認。 ・ ○×について調査。		
具体的 成果等 (今後の予 定を含む)	・ 平成 23 年○月○日に公開シンポジウム「○○○」を開催。(日本学術会議講堂、参加者約 ○○名)。 シンポジウムについては、○○新聞に掲載された他、○×△等の反響があった。 ・ 今後、シンポジウムにおける意見等を踏まえ、○○における△△について取りまとめを行 い、提言として○年○月頃公表する予定。		
開催状況	平成 23 年○月○日、平成 24 年○月○日、○月○日		